

松本押絵雛

宮坂静生



博物館三階雪嶺見るために
総立ちの高嶺雪後の直狂気
冬毛雷鳥御丸のごとく飼育され
芽起しの雷荒る齒間ブラシ当て
群山の叫ぶがごとし雪解急
餓死の鳥すべてわが鳥雪ねぶり



黒そいをほぐすシミモザに囁かれ
椿冷えとてティンパニをやたら叩く
環なす曲を奏でて紅梅は
梅は反戦紅梅は厭戦か
松本城下
押絵雛臟一切を持たざりし
早春の空気粒々牛愛す
白鳥の暁の旋回三・一一